

## 経営情報学部 総合経営学科

### 履修の手引と手続き

#### <小 目>

I	カリキュラム・ポリシー	118
II	ディプロマ・ポリシー	119
III	授業科目について	119
IV	授業科目の単位と認定	119
V	卒業に必要な単位について	120
VI	3年次への進級条件及び各学年における標準的な修得単位	121
VII	授業科目の学年配当と履修すべき単位数	122
	1. 学科共通科目群	122
	2. 専門科目群	127
	3. Global College 科目群	134
	4. 特設科目群	137
	5. 自由科目群	138
VIII	リベラルアーツ&サイエンス科目群	140
IX	履修申請について	143
X	正規の履修からはずれる場合	143
XI	試験について	144
XII	授業科目の単位認定と進級及び留年	145
XIII	成績発表	146

## 履修の手引と手続き

### I カリキュラム・ポリシー

経営情報学部教育課程（カリキュラム）は、総合経営学科の1学科制としている。経営情報学部の初年度教育から演習ゼミナールを通じた4年間の学修成果である「卒業研究」に至るまで、系統別に段階的な教育課程を編成する。

1. 初年度教育として大学で学ぶためのスキルとキャリア形成に必要な職業観を涵養する場として、必修科目として「ビジネスキャリアⅠ」「ビジネスキャリアⅡ」を配置する。
2. 学科共通科目群Ⅰでは、経済社会のグローバル化と情報化の進展に適應できる、世界共通言語である英語を中核とする語学や情報リテラシーの科目を提供する。
3. 学科共通科目群Ⅱでは、世界の多様な価値観を互いに認め合うための幅広い知識を提供するために、自然科学、社会科学並びに人文科学の一般教養科目を設置する。
4. 専門科目群Ⅰでは、経営情報学部学生にとって共通な総論的または基礎的な経営学関連科目を中核として、マーケティング関連、経済学、会計学及び情報科学などの科目を設置する。
5. 専門科目群Ⅱでは、経営学、マーケティング関連、経済学、会計学及び情報科学、スポーツマネジメントに関わる専門性の科目を設置し、さらに「経営（マネジメント）」と深く関わりのある法律関係の専門的な科目を設置する。
6. 演習科目群では、第一に国内や国外のインターンシップ、産学連携のプロジェクト研究並びに演習ゼミナールなどを通じて、学生により高度な専門性と実践力を養う場を提供する。
7. 3年次、4年次生の為に演習科目群では、職業選択に必要な知識、就職活動で求められる経営知識などを学ぶビジネスキャリアⅢを設置する。
8. 卒業論文の作成は必修化し、キャンパス別の発表の場を設け、4年間の学修を評価し、学位授与を決定する。
9. Global College 科目群では、より高度な英語でのコミュニケーション能力を磨くために、英語での専門科目の学びの場を提供する。
10. 中等学校教育の教員免許を得るためには、要卒単位外で「教育実習」も含め所定の「教職課程科目」を履修しなければならない。本学部において専門教育とかかわり教職課程の認定を受けて修得できるのは、中学校教諭一種免許状（「社会」「保健体育」）、高等学校教諭一種免許状（「地理歴史」「公民」「商業」「保健体育」「情報」）である。

経営情報学部では上述の方針を遵守し、現行では下記のコースを設置する。

- ①グローバルビジネス・マーケティングコース（千葉東金キャンパス及び東京紀尾井町キャンパス）

- ②会計ファイナンスコース（東京紀尾井町キャンパス）
- ③公共マネジメントコース（千葉東金キャンパス）
- ④スポーツマネジメントコース（千葉東金キャンパス）
- ⑤情報マネジメントコース（千葉東金キャンパス）
- ⑥情報・メディアマネジメントコース（東京紀尾井町キャンパス）

## II ディプロマ・ポリシー

経営情報学部で学位を授与される者は、経営学関連分野と情報科学関連分野を融合した学際的な知識と実務能力を有し、経営資源となるヒト、モノ、カネ、及び情報の希少な資源を効率的に配分し、新たな価値を創造し社会に貢献する。

- ①情報科学の活用を通じて「経営」に関連する領域で分析ができ、経営に役立つノウハウや情報を提供できる。
- ②インターシップ、プロジェクト研究、演習ゼミ等を通じて、企業組織などに企画や立案をおこない、新しい価値創造が提供できる。
- ③国際的に汎用性の高い英語や外国語を学ぶことを通じて、価値観の異なる異文化の人々と意思疎通や相互理解に努めることができる。
- ④スポーツマネジメント分野では、心身の健康増進を目的とする科学的知識、ビジネス分野への理解を深め、自己の体力の維持・向上のスキルを身につける。
- ⑤社会人となっても、常に向上心と向学心を以って社会の変化に適応でき、積極的に社会の発展のために関与できるチャレンジ精神やリーダーシップをもてる。

## III 授業科目について

経営情報学部総合経営学科における授業科目は学科共通科目群Ⅰ・Ⅱ、専門科目群Ⅰ・Ⅱ、Global College 科目群、演習科目群、特設科目群及び自由科目群から構成されている。

また東金キャンパス、東京紀尾井町キャンパスで開講される科目ならびに履修方法については、オリエンテーション等を通じて指示する。原則として、年度の途中にキャンパスの変更はできないので十分に注意すること。

なお、教職に関する科目は、自由科目群に準備されている。

## IV 授業科目の単位と認定

本学部では単位制を採用している。単位制とは、ひとつひとつの授業科目に一定の基準により定められた単位があり、履修した授業科目に対して、試験もしくはその他の方法により学習評価をしたうえで、その単位を認定する制度である。

単位の認定は、S・A・B・Cの4段階評価により行い、D・E・F・T・Zの評価は単位を認定しないものとする。成績の評価については、「X 成績発表」の項を参照すること。

## V 卒業に必要な単位について

卒業に必要な単位は、次の表に示すとおりである。

ただし自由科目は卒業に必要な単位には含めない。

系 列	学部・学科	経営情報学部	総合経営学科
		単 位 数	
学科共通科目群 I (英語・日本語・情報リテラシ)		20	
Global College 科目群			
学科共通科目群 II (基礎科目群)		10	
専門科目群 I		16	
専門科目群 II		16	
演習科目群		14	
経営情報学部の全ての科目群より修得した科目以外に 選択必修。その内、リベラルアーツ&サイエンス科目 群を含めて30単位を上限に他学部の科目を卒業単位に 含めることができる。		48	
	計	124	

## Ⅵ 3年次への進級条件及び各学年における標準的な修得単位

3年次に進級するには原則として、「ビジネスキャリアⅠ・Ⅱ」及び1年次の必修科目を含め36単位以上を修得しなければならない。

各学年における授業科目および修得単位数の目安は、次の表に示すとおりである。

また、年間の履修登録については原則50単位未満とすること。ただし、大学が教育上適当と認める場合は、履修上限単位数を超えて履修することを認めることがある。

学年	単位数の目安	
1年次	学科共通課目群Ⅰ（英語・日本語・情報リテラシ） Fundamentals of EnglishⅠ・Oral FluencyⅠ（必修） 日本語ⅠA・ⅠB（外国人留学生・帰国生必修） 英語科目、第2外国語、情報メディア論、コンピュータ 基礎論・応用論、経営情報基礎論の中から選択必修 学科共通課目群Ⅱ（基礎科目群） 専門科目群Ⅰ 経営学総論（必修） Global College科目群 演習科目群 ビジネスキャリアⅠ（必修）	6科目12単位     4科目8単位 5科目10単位  1科目2単位 1科目2単位
2年次	学科共通課目群Ⅰ（英語・日本語・情報リテラシ） Fundamentals of EnglishⅡ・Oral FluencyⅡ（必修） 日本語ⅡA・ⅡB（外国人留学生・帰国生必修） 学科共通課目群Ⅱ（基礎科目群） 専門科目群Ⅰ 専門科目群Ⅱ 演習科目群 ビジネスキャリアⅡ（必修）	2科目4単位     1科目2単位 3科目6単位 2科目4単位 1科目2単位
3年次	専門科目群Ⅱ ※各コースごとに推奨科目を履修 演習科目群 ゼミナールⅠ（必修） インターンシップ（国内）、インターンシップ（海外）	6科目12単位  2科目6単位
4年次	演習科目群 ゼミナールⅡ（必修）	1科目4単位
卒業 修得単位数 124単位	※上記指定された科目群より修得した科目以外に22単位	

## Ⅶ 授業科目の学年配当と履修すべき単位数

### 1. 学科共通科目群

学科共通科目群は、学科共通科目群Ⅰ（英語・日本語・情報リテラシ）、学科共通科目群Ⅱ（基礎科目群）の二系列に分かれている。それらの各系列の中から「Ⅲ. 卒業に必要な単位について」で示された所定の単位以上を修得するために、科目を履修し、卒業要件を満たさなければならない。

#### (1) 学科共通科目群Ⅰ（英語・日本語・情報リテラシ）

※単位数に○印を付してある科目は必修を示す。

系列	授業科目	年次および単位数				最低修得 単位数	備 考
		1年	2年	3年	4年		
学科共通科目群Ⅰ （英語・日本語・情報リテラシ）	Fundamentals of English I	②				20単位	学科共通科目群Ⅰ（英語・日本語情報リテラシ）・Global College 科目群より、必修科目を含み20単位以上を選択必修すること。
	Oral Fluency I	②					
	Fundamentals of English II		②				
	Oral Fluency II		②				
	Basic Writing Skills	2					
	Intermediate Practical Discssion Skills	2					
	Intermediate Reading Skills		2				
	Intermediate Writing Skills		2				
	Intermediate Grammar	2					
	Oral Fluency III	2					
	Advanced Practical Discussion Skills			2			
	Advanced Reading Skills			2			
	Oral Fluency IV			2			
	English Pronunciation			2			
	日本語ⅠA	②					
	日本語ⅠB	②					
日本語ⅡA		②					

系列	授業科目	年次および単位数				最低修得 単位数	備 考
		1年	2年	3年	4年		
学科 共通 科目 群 Ⅰ (英 語・ 日 本 語・ 情 報 リ テ ラ シ)	日 本 語 Ⅱ B		②			20単位	外国人留学生・帰 国生は「日本語Ⅰ A・ⅠB・ⅡA・ ⅡB」を第1外国 語として必修。
	日 本 語 Ⅲ		2				
	日 本 語 Ⅳ		2				
	TOEIC: Vocabulary I		2				
	TOEIC: Vocabulary II			2			
	TOEIC: Grammar & Listening I		2				
	TOEIC: Grammar & Listening II			2			
	Spoken Business English				2		
	Business English Writing				2		
	日本語基礎表現法			2			
	ドイツ語ⅠA	2					
	ドイツ語ⅠB	2					
	ドイツ語Ⅱ			2			
	ドイツ語Ⅲ			2			
	ドイツ語Ⅳ				2		
	フランス語ⅠA	2					
	フランス語ⅠB	2					
	フランス語Ⅱ			2			
	フランス語Ⅲ			2			
	フランス語Ⅳ				2		
	スペイン語ⅠA	2					
	スペイン語ⅠB	2					
	スペイン語Ⅱ			2			
	スペイン語Ⅲ			2			
	中国語ⅠA	2					
	中国語ⅠB	2					
中国語Ⅱ			2				

系列	授業科目	年次および単位数				最低修得 単位数	備 考
		1年	2年	3年	4年		
学科 共通科目 群Ⅰ (英語・ 日本語・ 情報リ テラシ)	中国語Ⅲ		2			20単位	
	中国語Ⅳ			2			
	韓国語ⅠA	2					
	韓国語ⅠB	2					
	韓国語Ⅱ		2				
	韓国語Ⅲ		2				
	韓国語Ⅳ			2			
	ハンガリー語ⅠA	2					
	ハンガリー語ⅠB	2					
	ハンガリー語Ⅱ		2				
	ハンガリー語Ⅲ		2				
	ハンガリー語Ⅳ			2			
	ポーランド語ⅠA	2					
	ポーランド語ⅠB	2					
	ポーランド語Ⅱ		2				
	ポーランド語Ⅲ		2				
	チェコ語ⅠA	2					
	チェコ語ⅠB	2					
	チェコ語Ⅱ		2				
	チェコ語Ⅲ		2				
	ポルトガル語ⅠA	2					
	ポルトガル語ⅠB	2					
	ポルトガル語Ⅱ		2				
	ポルトガル語Ⅲ		2				
	スウェーデン語ⅠA	2					
	スウェーデン語ⅠB	2					
中国語コミュニケーション			2				
韓国語コミュニケーション			2				



系列	授業科目	年次および単位数				最低修得 単位数	備考
		1年	2年	3年	4年		
学科共通科目群Ⅰ (英語・情報リテラシー・ 日本)	情報メディア論	2					
	コンピュータ基礎論	2					
	コンピュータ応用論	2					
	経営情報基礎論	2					

## 〔備考〕

- (1) 学科共通科目群Ⅰでは第一外国語として英語（外国人留学生・帰国生徒は日本語）を学ぶ。うち Fundamentals of English I・II, Oral Fluency I・II（日本語は日本語ⅠA・ⅠB・ⅡA・ⅡB）は必修科目である。
- (2) Fundamentals of English II, Oral Fluency IIを履修するためにはそれぞれのⅠを修得していること。
- (3) 英語選択科目を履修する場合は、年度末に実施する英語プレズメントテストを受けることが望ましい。
- (4) 日本語ⅠA・ⅠBのいずれか2単位を修得していなければ日本語ⅡA・ⅡBを履修することはできない。
- (5) 第2外国語においてⅠBを履修するにはⅠAを修得していなければならない。

## (2) 学科共通科目群Ⅱ（基礎科目群）

系 列	授業科目	年次および単位数				最低修得 単 位 数	備 考
		1年	2年	3年	4年		
学 科 共 通 科 目 群 Ⅱ  (基礎科目群)	倫 理 学 概 論	2				10単位	「学科共通科目群Ⅱ（基礎科目群）」の中より10単位以上を選択必修すること。
	法 律 学 概 論	2					
	日 本 国 憲 法	2					
	政 治 学		2				
	現 代 社 会 論	2					
	心 理 学	2					
	統計学の基礎知識	2					
	女 性 学 入 門	2					
	グローバル社会と女性	2					
	女性とキャリアデザイン		2				
	世界の児童文学	2					
	基礎の数学	2					
	自然科学概論	2					
	線形代数学	2					
	生涯スポーツ概論	2					
	スポーツ科学Ⅰ a	1					
	スポーツ科学Ⅰ b	1					
	スポーツ科学Ⅱ a		1				
	スポーツ科学Ⅱ b		1				
	外国史概説		2				
	日本の歴史 a	2					
	日本の歴史 b	2					
	地 理 学 a		2				
	地 理 学 b		2				
	地 誌			2			
	宗 教 学 概 論	2					
	異文化適応論	2					
	世界の中の日本	2					
地 域 と 大 学	2						

系列	授業科目	年次および単位数				最低修得単位数	備考
		1年	2年	3年	4年		
学科共通科目群Ⅱ (基礎科目群)	自校史研究(建学の精神と大学の理念)	2					
	情報表現技法	2					
	経済学の基礎	2					
	経済事情	2					
	情報社会と情報倫理	2					

〔備考〕

(1) 学科共通科目群Ⅱ(基礎科目群)は経営基礎と教養基礎に関する科目群である。

(2) スポーツ科学Ⅰa, Ⅰbを修得していなければ, スポーツ科学Ⅱa, Ⅱbを履修することが出来ない。

## 2. 専門科目群

専門科目群は、「専門科目群Ⅰ」「専門科目群Ⅱ」によって構成されています。

本学部ではコース制を導入しており、東京紀尾井町キャンパスは3コース、東金キャンパスは4コースに分かれ、その中の専門領域のゼミで研究を深めることとなります。1年次の基礎教育と「ビジネスキャリアⅠ」、2年次の「ビジネスキャリアⅡ」と段階的に学び、語学科目、情報系科目、専門基礎科目、Global College 科目群の科目を計画的に履修し、ビジネスツールと国際教養を身に付けて専門領域の研究「ゼミナール」に進むこととなります。

### <東京紀尾井町キャンパス>

経営学や会計学、流通・マーケティング、消費者行動分析はもちろん、企業情報システムや情報ネットワーク、メディア情報、英語や諸外国の語学や国際ビジネスなどの科目が配置されています。日本の政治経済の中心地で語学、経営、経済、情報を幅広く学んでいきます。英語の学習と、Global College 科目を並行学習することにより英語力を高めることができ、国際社会に不可欠な深い教養を身に付けることができます。

#### (1) グローバルビジネス・マーケティングコース

このコースは、1年次から、英語、第二外国語を学習し、Global College 科目により語学力をスキルアップさせ、海外留学、インターンシップ・研修等により国際ビジネスの現場体験を積みながら、企業の国際展開に求められる英語でのコミュニケーション能力を身に付けたグローバルに活躍できる人材を育成します。そして、このコースでは、企業経営の戦略策定、組織設計、マネジメント力、マーケティング活動による顧客ニーズの把握や流通チャネルの効率化などについて実践的かつ専門的な知識を学び、グローバルな発想の下、具体的な諸問題を解決することが可能なビジネスパーソンやビジネスリーダーの育成を図ります。

## (2) 会計ファイナンスコース

公認会計士など高度会計専門職を含め、会計・財務・金融の実務能力を身につけます。このコースにおいても、1・2年次に英語力を身に付け、上級学年では国際会計についても学習していきます。

## (3) 情報・メディアマネジメントコース

情報通信技術（ICT）やソーシャルメディア（SNS）を活用して企業や組織の情報戦略を推進するための人材を目指します。グローバル化が進む日本企業において、英語力は必ず求められる能力になっています。本コースにおいても、基礎科目、専門科目と並行して、1年次から英語を学習していきます。

## <東金キャンパス>

企業の様々な分野で活躍できる人材、成田国際空港という国際物流の拠点で活躍できる人材、地域や公共分野で活躍できる人材、保健体育分野における教育人材、スポーツの分野で活躍できる人材になるための準備を行います。そのために各コースにおいて体系的に学んでいきます。また、様々なプロジェクトを通して実践的・体験的学習によりグローバル社会および地域活性化に貢献できる人材を育成します。

### (1) グローバルビジネス・マーケティングコース

このコースは、企業経営の基本とマーケティングを学び、地域貢献活動を通して地域経営ならびに地域経済活性化に求められるマーケティング企画力、マネジメント力と現場力を身につけます。また、国際ビジネスと語学を学び、企業の国際展開に求められる他言語（特に英語）でのコミュニケーション能力を身につけます。特に、航空貨物物流の拠点である成田空港に隣接した東金キャンパスでは、グローバル化の先端を担う航空貨物物流を体系的に学び、インターンシップや現場見学会を通して国際ビジネスの起点となる航空物流で活躍できる人材を目指します。

### (2) 公共マネジメントコース

公務員試験合格を目指しながら、英語、経営、経済、法律等の幅広い分野について学んでいきます。公務員とは言え、現在はグローバルな視点から国や地方の活性化に資する人材が必要とされています。そして、同時に民間の活力を引き出し、生かす企画力やマネジメント力が必要です。本コースはそうした人材を育成するためのコースです。

### (3) スポーツマネジメントコース

このコースは、スポーツ理論とスポーツ科学を身につけ、1年次から英語、スポーツ関連専門科目、教職に関する科目を修得する履修計画を立て、語学力、教師力のある保健体育教員を目指すと同時に、スポーツ指導者・スポーツリーダーの資質を養い、スポーツ業界で、スポーツクラブ等の管理・運営もできるマネジメント力のある人材を育成します。スポーツビジネスは、今や世界を舞台に展開され、その共通語は英語になっています。1年次から英語力を身に付けて、国際社会においてスポーツビジネスを展開できる人材を目指します。

### (4) 情報マネジメントコース

このコースでは、情報通信技術（ICT）に基づく様々な基盤ソフトやアプリ（アプリケーションソフト）の開発、システムの設計・構築・運用に携わる者として「情報」の知識を学びます。また、電子商取引などのインターネットを活用したビジネスや、企業の情報システム部門で活躍できる人材あるいは情報技術を活用し情報による地域の活性化を図れる人材の育成を目指します。インターネットビジネスを展開する企業において、英語力は必須となっています。本コースにおいても、基礎科目、専門科目と並行して、1年次から英語を学習していきます。

※コース推奨科目

それぞれのキャンパスにおいて各コースに分かれて学習する上で、1・2・3年次に修得しておくことが望ましい科目をコース推奨科目としています。学部必修科目と併せて履修計画を立ててください。科目の詳細については、オリエンテーション、「ビジネスキャリアⅠ」の授業で説明します。以下にコース推奨科目の内、1・2年生科目の一部を紹介します。

<東京紀尾井町キャンパス>

グローバルビジネス・マーケティングコース	会計ファイナンスコース	情報・メディアマネジメントコース
情報メディア論, コンピュータ基礎論・応用論, 経営情報基礎論		
第二外国語 マーケティング論 ロジスティクス概論 簿記論 消費生活と行政 経営組織論 Global College 科目など	簿記論 会計学Ⅰ 会計学Ⅱ マーケティング論 ロジスティクス概論 財務諸表論など	情報セキュリティ 情報ネットワーク論 データベース基礎論 情報社会と情報倫理など

<東金キャンパス>

グローバルビジネス・マーケティングコース	公共マネジメントコース	スポーツマネジメントコース	情報マネジメントコース
情報メディア論, コンピュータ基礎論・応用論, 経営情報基礎論			
第二外国語 経済事情 マーケティング論 会計学Ⅰ Global College 科目など	日本国憲法 経済原論 a 経済原論 b 政治学など	生涯スポーツ概論 スポーツ科学Ⅰ a スポーツ科学Ⅰ b スポーツ社会学など	情報セキュリティ 情報ネットワーク論 データベース基礎論 情報社会と情報倫理 など

※各コースの選択方法や手続きについては、ビジネスキャリアⅠ・Ⅱを通じて行います。

系列	授業科目	年次および単位数				最低修得 単位数	備 考
		1年	2年	3年	4年		
専 門 科 目 群 Ⅰ	企業と社会	2				16単位	「専門科目群Ⅰ」の中より必修科目を含み16単位以上選択必修すること。  「Ⅰ・Ⅱ」で表示された科目は、数字の順序に従い、履修すること。
	経営学総論	②					
	マーケティング論	4					
	流通論		2				
	ロジスティクス概論	2					
	国際ロジスティクス論		2				
	簿記論	4					
	工業簿記論Ⅰ	2					
	工業簿記論Ⅱ	2					
	会計学Ⅰ	2					
	会計学Ⅱ	2					
	財務諸表論Ⅰ		2				
	財務諸表論Ⅱ		2				
	経営分析論Ⅰ		2				
	経営分析論Ⅱ		2				
	経済原論 a	2					
	経済原論 b	2					
	消費生活と行政	2					
	ジャーナリズム論	2					
	電子商取引論		2				
情報システム論		2					
情報セキュリティ	2						

系 列	授業科目	年次および単位数				最低修得 単 位 数	備 考
		1年	2年	3年	4年		
専 門 科 目 群 Ⅱ	経営戦略論			2		16単位	「専門科目群Ⅱ」の中より必修科目を含み16単位以上を選択必修すること。  「Ⅰ・Ⅱ」で表示された科目は、数字の順序に従い、履修すること。
	経営管理総論		2				
	人事労務管理論		2				
	経営組織論		2				
	中小企業論			2			
	企業倫理論		2				
	企業とリスクマネジメント		2				
	管理会計論Ⅰ			2			
	管理会計論Ⅱ			2			
	原価計算論Ⅰ		2				
	原価計算論Ⅱ		2				
	会計監査論		2				
	現代ファイナンス論			2			
	財務会计学			2			
	流通情報システム論		2				
	マーケティング情報論			2			
	ビジネスデータ分析			2			
	情報と職業		2				
	情報産業論		2				
	デジタルメディア論		2				
	情報ネットワーク論		2				
	データベース基礎論		2				
	情報理論		2				
	組織情報論	2					
	情報化戦略論		2				
	データベース応用論		2				
	情報処理基礎論		2				
	情報処理応用論		2				
アルゴリズム基礎論		2					
アルゴリズム応用論		2					
プログラム設計		2					
プログラミング基礎		2					

系 列	授業科目	年次および単位数				最低修得 単 位 数	備 考
		1年	2年	3年	4年		
専 門 科 目 群 II	プログラミング応用		2			16単位	「専門科目群II」の中より必修科目を含み16単位以上を選択必修すること。  「I・II」で表示された科目は、数字の順序に従い、履修すること。
	システム監査論		2				
	モデル化とシミュレーション			2			
	情報学特論I		2				
	情報学基礎演習	2					
	情報学応用演習	2					
	データベース演習			2			
	消費者行動分析論				2		
	サービスマーケティング論				2		
	国際マーケティング論				2		
	起業マネジメント論				2		
	事業と継承		2				
	ベンチャーキャピタル論				2		
	国際NPOマネジメント論				2		
	健康管理概論		2				
	社会保険と福祉				2		
	地球環境論	2					
	地域振興論		2				
	スポーツビジネス論		2				
	スポーツ栄養学		2				
	心と身体の科学		2				
	運動生理学		2				
	スポーツ医学			2			
	スポーツ心理学		2				
	救急処置(実習を含む)		2				
	スポーツ社会学		2				
	スポーツ経営学			2			
スポーツと地域振興			2				
健康運動指導法(実習を含む)			2				
体力トレーニング実習			1				
解剖生理学		2					
衛生・公衆衛生学			2				



系列	授業科目	年次および単位数				最低修得単位数	備 考
		1年	2年	3年	4年		
専 門 科 目 群 II	学 校 保 健 学			2		16単位	「専門科目群II」の中より必修科目を含み16単位以上を選択必修すること。  「I・II」で表示された科目は、数字の順序に従い、履修すること。
	地域スポーツマネジメント論			4			
	サービス実践論		2				
	国際経営論			4			
	ミクロ経済学			2			
	マクロ経済学			2			
	国際経済学		2				
	財 政 学			2			
	金 融 論		2				
	ファイナンシャルプランニング論a		2				
	ファイナンシャルプランニング論b		2				
	民 法 a		2				
	民 法 b		2				
	商 法 a		2				
	商 法 b		2				
	会 社 法 a			2			
	会 社 法 b			2			
	税 法 a			2			
	税 法 b			2			
	行 政 法		2				
労 働 法		2					
国 際 法			4				

### 3. Global College 科目群

Global College 科目群には、世界で通用するグローバル人材を目指して、ビジネス、政治、異文化理解、文化、文学など幅広い教養を英語で学ぶことが出来る科目を配置している。

系列	授業科目	年次および単位数				最低修得単位数	備考
		1年	2年	3年	4年		
Global College 科目群	Introduction to Japanese Literature	2				6 単位	学科共通科目群 I (英語・日本語・情報リテラシ)・Global College 科目群より、必修科目を含み20単位以上を選択必修すること。
	Japanese Literature in Translation a	2					
	Japanese Literature in Translation b	2					
	Modern American Literature	2					
	Modern Women's Literature	2					
	Modern Poetry	2					
	Japanese Art and Literature	2					
	Samurai Tradition in Edo Culture	2					
	Japanese Art & Museum Management		2				
	Tradition in Contemporary Japan	2					
	Theory of Acculturation: Minorities in Japan		2				
	Europe and Japan a	2					
	Europe and Japan b	2					
	Cinema Studies	2					
	The Great Directors in the World I	2					
	The Great Directors in the World II	2					
	Japanese Film and Visual Art	2					
Japan-U.S. Film Comparative Research		2					

系列	授業科目	年次および単位数				最低修得 単位数	備 考
		1年	2年	3年	4年		
Global College 科目群	Introduction to French Cinema I	2					
	Introduction to French Cinema II	2					
	Film Industry in Hollywood	2					
	Reading Comics in English	2					
	Animation	2					
	Sound Design		2				
	Gender and Culture	2					
	Women in Asia	2					
	Modernism in Architecture	2					
	The Cityscape Worldwide	2					
	Business and Society	2					
	International Finance			2			
	International Marketing			2			
	Introduction to Database Theory			2			
	Introduction to Global Management	2					
	Strategic Management		2				
	Methodologies of Cultural Observation: Travel and Dialogue		2				
	Introduction to Social and Environmental	2					
	Ecology Policy	2					
	Environmental Issues & Technology		2				
	Safety of Food and Environmental Chemicals	2					
Japanese to English Translation			2				

系 列	授業科目	年次および単位数				最低修得 単 位 数	備 考
		1年	2年	3年	4年		
演 習 科 目 群	ビジネスキャリアⅠ	②				14単位	「演習科目群」の中より必修科目を含み14単位以上を選択必修すること。  「グローバル研修」を履修するためには、「世界の中の日本a・b・c・d」のいずれか関連する科目を事前に履修し、修得すること。
	ビジネスキャリアⅡ		②				
	ゼミナールⅠ			④			
	ゼミナールⅡ				④		
	ビジネスキャリアⅢ			2			
	インターンシップ(国内)			2			
	インターンシップ(海外)		2				
	地域プロジェクト	2					
	プロジェクト研究Ⅰ		2				
	プロジェクト研究Ⅱ			2			

## 4. 特設科目群

本学科の専門分野の知見を深めたうえで、さらにグローバル化社会を担う人材となるために語学実践力を養うことを目的とした科目である。

系列	授業科目	年次および単位数				最低修得単位数	備考
		1年	2年	3年	4年		
特設科目群	Japanese Language and Culture						<p>「Japanese Language and Culture」は、英語を母国語とする外国人留学生および英語圏外国人留学生を対象とした科目である。修得した単位は、「リベラルアーツ&amp;サイエンス科目群」と併せて30単位を上限として、学部・学科の各科目群に振り替えることができる。</p> <p>「Basic Japanese a・b・c・d」 「Intermediate Japanese a・b・c・d」 「Advanced Japanese a・b」 は、日本語プレメントテストの結果によりクラス指定を受けて履修すること。</p> <p>その他の科目については、オリエンテーションを受けたうえで履修すること。</p>
	Basic Japanese a	4					
	Basic Japanese b	4					
	Basic Japanese c	4					
	Basic Japanese d	4					
	Intermediate Japanese a	4					
	Intermediate Japanese b	4					
	Intermediate Japanese c	4					
	Intermediate Japanese d	4					
	Advanced Japanese a			4			
	Advanced Japanese b			4			
	JLPT course a			4			
	JLPT course b			4			
	Japanese Project a			2			
	Japanese Project b			2			
	日本文化 a	2					
日本文化 b	2						
日本社会 a	2						
日本社会 b	2						

## 5. 自由科目群

自由科目とは卒業に必要な単位数には加算されないが、自由に選択履修することのできる授業科目である。本学科においては、自由科目として、教職課程の科目が準備されている。これらの自由科目については、後掲の「教職課程」の説明を参照のこと。

系列	授業科目	年次および単位数				備 考
		1年	2年	3年	4年	
自由科目群	ボランティア活動ⅠA	2				
	ボランティア活動ⅠB	2				
	ボランティア活動ⅡA			2		
	ボランティア活動ⅡB			2		
	地理情報論Ⅰ	4				
	地理情報論Ⅱ		4			
	職業指導			4		
	教育原理		2			
	教育課程論	2				
	教職論	2				
	教育心理学		2			
	青年心理学		2			
	教育制度		2			
	教育方法論		2			
	社会科教育法Ⅰ			2		
	社会科教育法Ⅱ			2		
	社会科教育法Ⅲ			2		
	社会科教育法Ⅳ				2	
	公民科教育法Ⅰ			2		
	公民科教育法Ⅱ			2		
	商業科教育法Ⅰ			2		
	商業科教育法Ⅱ			2		
	情報科教育法Ⅰ			2		
情報科教育法Ⅱ			2			
保健体育科教育法Ⅰ			2			
保健体育科教育法Ⅱ			2			

系 列	授業科目	年次および単位数				備 考
		1年	2年	3年	4年	
自 由 科 目 群	保健体育科教育法Ⅲ			2		
	保健体育科教育法Ⅳ				2	
	体育史		2			
	体づくり運動		1			
	器械運動		1			
	陸上競技		1			
	水 泳		1			
	サッカー		1			
	バレーボール		1			
	バスケットボール		1			
	柔 道		1			
	ダンス		1			
	スキー		1			
	運動学（運動方法学を含む）		2			
	道德教育の理論と方法	2				
	特別活動論		2			
	生徒指導 （進路指導の理論及び方法を含む）		2			
	教育相談 （カウンセリングを含む）			2		
	教育実習Ⅰ （事前及び事後指導を含む）				3	
	教育実習Ⅱ				2	
教職実践演習（中・高）				2		

## Ⅷ リベラルアーツ&サイエンス科目群

リベラルアーツ&サイエンス (LAS) センターは、本学の建学の精神に基づく人格形成、幅広い教養や知識の習得、専門分野での学業に役立つ問題意識の育成、社会人として求められる基礎能力の向上等を主たる目標として掲げている。

学生の皆さんにも、こうした問題意識をもって科目履修をしてもらうために、学部・学科ですでに開講している科目を“人格形成領域”“一般教養領域”“基礎能力領域”という3領域に大きく分けて整理し直し、「リベラルアーツ&サイエンス科目群」として特別に提示している。各々の領域は、

人格形成領域：「地球と環境」「人間と思想」「国家と規範」「倫理と社会」「社会とジェンダー」  
という5テーマ

一般教養領域：「人類のあゆみ」「文化のかたち」「社会と経済」「健康と福祉」という4テーマ

基礎能力領域：「非言語分野」「言語分野」「ビジネスマナー」「プレゼンテーション」という4  
テーマ

に分けてまとめている。いずれも、学生の皆さんが就職して社会へ出る準備をするうえで重要とされるテーマである。

これらに加えて、LASセンターが特に力を入れたい分野・テーマについては独自の科目として開講し、さらに必要に応じて開講するサマースクール等も「総合基礎教養Ⅰ～Ⅳ」として単位認定する。LASセンターが独自に開講するこれらの科目は、すべて1～4年次のいずれかで履修することができる。

「リベラルアーツ&サイエンス科目群」を履修して修得した単位は、30単位を限度として申請により、学部・学科の各科目群に振り替えることができる。「リベラルアーツ&サイエンス科目群」の履修や内容についての質問、学業に係わる相談等は、本部棟4階にあるLASセンターにて随時受け付けている。



リベラルアーツ&サイエンス科目群

領域	系 列	授業科目	年次および単位数				備 考
			1年	2年	3年	4年	
人 格 形 成 領 域	①地球と環境	生活と環境	2				L A S 科目群から修得した単位の中から30単位を限度として、各科目群に申請により振り替えることができます。詳細については、オリエンテーション時に説明します。
	②人間と思想	現代の人間思想	2				
		現代思想	2				
	③国家と規範	日本国憲法 ※	2				
		法律学概論 ※	2				
		政治学 ※		2			
	④倫理と社会	倫理学概論 ※	2				
		情報社会と情報倫理 ※	2				
	⑤社会とジェンダー	女性学入門	2				
		ジェンダー論	2				
女性学		2					
一 般 教 養 領 域	①人類のあゆみ	サルからヒトへ	2				
		日本の歴史 a ※	2				
		日本の歴史 b ※	2				
		アメリカの歴史	2				
		韓国の歴史	2				
		中国の歴史	2				
		人類と科学技術の発達		2			
	②文化のかたち	文化人類学	2				
		日本文化論	2				
		アメリカ文化概論	2				
		日本美術	2				
	③社会と経済	西洋美術	2				
		社会学入門	2				
		経済事情 ※	2				
		経済学入門		2			
		経済学の基礎 ※	2				
	④健康と福祉	中国経済入門		2			
		心と身体の科学 ※		2			
健康維持と生活習慣			2				
基 礎 能 力 領 域	①非言語分野	基礎の数学 ※	2				
		線形代数学 ※	2				
		統計学の基礎知識 ※	2				
		総合基礎教養Ⅰ(非言語)	2				
		総合基礎教養Ⅱ(非言語)	2				
	②言語分野	日本語基礎表現法 ※	2				
		総合基礎教養Ⅲ(言語)	2				
		総合基礎教養Ⅳ(言語)	2				
	③ビジネスマナー	ビジネス入門	2				
		ビジネス基礎		2			
ビジネスマナー			2				

領域	系 列	授業科目	年次および単位数				備 考
			1 年	2 年	3 年	4 年	
基礎能力領域	③ ビジネスマナー	航空・空港キャリア概論 a	2				
		航空・空港キャリア概論 b	2				
	④ プレゼンテーション	プレゼンテーション I	2				
		プレゼンテーション II	2				

※ 印は、総合経営学科の他の科目群に配当

## IX 履修申請について

各年次において履修しようとする授業科目は、毎学期の初めの指定された期日に、所定の方法（オリエンテーションで説明する）で履修申請をしなければならない。履修申請は、年間の受講計画をたて、単位を取得する意思表示をする学期初めの重要な手続きである。この履修申請手続きを間違えたために、授業科目の履修ができなくなり、その結果、進級はもとより卒業ができなくなる場合もあるので、以下に掲げる注意事項を厳守して、誤りの無いように履修申請をすること。

- (1) 履修授業科目および担当教員などの変更，追加，取消しなどが無いよう，入力する前に授業時間割表に則してもう一度確認するなど，細心の注意を払うこと。なお，履修照合期間が設けられているので間違いなく登録されているかどうかを必ず確認すること。
- (2) 履修申請をしていない授業科目は，受講しても単位は認められない。また修得した単位は分割することはできない。よって，授業科目の申請にあたっては進級や卒業に必要な単位の算定を慎重に行い，修得単位数が不足しないように万全を期すこと。
- (3) 同一学期の同一時限に2つ以上の授業科目を履修することはできない。
- (4) 一度単位を修得した授業科目は，再度履修することはできない。
- (5) Web履修登録では，授業科目，コマ・コード番号など必要事項を正しく入力すること。  
入力上の誤りは申請自体が無効になるので十分注意すること。また，入力の際，PCの前で長時間考えているとタイムアウトになる可能性があるため，登録する講義や時間割の下書きを準備してから入力すること。なお，大学内に設置されているPCの台数は限られているので，Web履修のために長時間占有しないこと。
- (6) コマ・コード番号とは，時間割表に授業科目と共に記載されている番号で，その時限の授業科目に固有の番号である。
- (7) 指定された期日までに履修申請を怠った場合は，学業の意思なしとみなされて，退学処分となるので入力期限を厳守すること。
- (8) 教職課程・副専攻・留学等，履修についての質問は，それぞれのアドバイザーもしくは，学部事務室に相談すること。

## X 正規の履修からはずれる場合

### 1. 再履修

履修申請をして単位が取得できなかった授業科目については，次年度または次学期において再び履修することができる。

### 2. 規定外履修

該当するクラスの授業時間以外のクラスで受講せざるを得ない場合は，アドバイザーと相談の上必ず学部事務室に申し出ること。ただし1年次生の規定外履修は原則として認めない。

## XI 試験について

### 1. 定期試験および臨時試験

- (1) 試験は、定期試験と臨時試験があり、定期試験は原則として学期末あるいは学年末に行い、臨時試験は担当教員の判断により適宜行われる。
- (2) いずれの授業科目も授業時数の1/3以上を欠席した場合には、原則として当該授業科目の受験資格を失う。ただし、病気または正当な理由により長期欠席の場合には、特別に配慮されることがある。
- (3) 試験の時間割は掲示により連絡する。
- (4) 授業科目によっては論文（レポート）提出によって試験に代える場合がある。

### 2. 追 試 験

- (1) 追試験は、やむを得ない事情によって定期試験を受験できなかった者に対し、原則として学期末または学年末に実施する。
- (2) 追試験を希望する者は、正当な事由を証明する書面をもって速やかに授業担当教員に届け出ること。
- (3) 追試験は、成績表の当該科目に「T」の表示がなされた場合に限り受験することができる。  
なお、追試験は、履修（再履修を含む）した年度に限り受験することができる。
- (4) 追試験を受験しようとする者は、「追試験受験願」を学部事務室に提出しなければならない。

なお、追試験の受験料は、1科目につき200円である。

### 3. 再 試 験

- (1) 再試験は、原則として学期末または学年末に実施する。ただし、授業科目によっては再試験を行わない場合もある。
- (2) 定期試験の結果、不合格（この場合成績表の当該科目に「F」の表示がなされる）となった授業科目のある者は、当該授業科目の担当教員が再試験を行なう場合、受験することができる。  
なお、再試験は、履修（再履修を含む）した年度に限り受験することができる。
- (3) 再試験の受験を許可された者は、「再試験受験願」を学部事務室に提出しなければならない。

なお、再試験の受験料は、1科目につき1,000円である。

### 4. 試験に関する注意

#### 1. 通 則

- (1) 試験場内では、すべて監督者の指示に従わなければならない。なお、監督者の指示に従わない者には、退場を命ずることがある。
- (2) 試験場内では、筆記用具・持込みを許された資料以外のものは、すべて監督者の指

定する場所におかなければならない。

- (3) 受験者は学生証および受験許可証（追・再試験の場合）を、机の上の見やすい場所に提示しておかなければならない。
- (4) 試験開始から20分を経過した後は入室・受験を認めない。
- (5) 試験開始から25分を経過するまでは退場を認めない。なお、監督者が退場を命ずる場合はこの限りではない。
- (6) 受験者は、試験中監督者の許可を得ないで試験場を出てはならない。
- (7) 試験の行われる学期の授業料未納の者・授業時数の1/3以上欠席した者は、試験を受けることができない。
- (8) 病気・事故その他正当な事由によって受験できなかった者は、診断書・事故証明その他正当な事由を証明する書面を添えて、遅滞なく授業担当教員に届出なければならない。

## 2. 試験における不正行為の懲戒について

- (1) 不正行為をした者については、学則第68条により罰せられ、更に年度における当該授業科目の単位の認定を行わない。
- (2) 不正行為のあった者の懲戒処分については、教授会の審議を経て、学長が決定する。
- (3) 学長はその旨保証人を召喚して通知すると共に学内にこれを公示する。

## 3. 試験における不正行為とは

- (1) 他の人から答えを教わることや、教えること等、いわゆるカンニング及びその手助けをすること。
- (2) 本人以外の名前・学籍番号で受験すること。
- (3) 許可されていないものを使用すること。
- (4) 「解答はじめ」の前、及び「解答おわり」の後に、試験監督の指示に従わず、解答を続けること。
- (5) その他、試験監督の指示に従わないこと。
- (6) 論文・レポート等における、剽窃行為をすること。

※ 剽窃行為…引用の形式をとらず、著作権者に無断で著作物を複製・転載する行為。学術上のルール・モラルに反する行為であり、著作権法に違反する行為。

# XII 授業科目の単位認定と進級および留年

## 1. 単位認定

- (1) 各科目の成績は、シラバス記載の成績評価基準に基づき総合的に判定する。
- (2) 100点を満点とし、60点以上をもって単位修得（合格）とする。  
その評価は次に従う。

評価	得点分布
S	100点～90点
A	89点～80点
B	79点～70点
C	69点～60点

- (3) 再試験における評価は60点を合格とし、79点を上限とする。
- (4) 再試験における成績評価の最高点は、定期試験合格者の成績評価の最低点を上回らないものとする。

## 2. 進級及び留年

- (1) 3年次への進級については、指定された進級要件を満たした場合に可能となる。  
 なお、指定された進級要件を満たさない場合においても、教授会の決定により進級を認める場合がある。
- (2) 4年次で卒業要件を満たさない者は留年とする。

## XIII 成績発表

- (1) 成績発表は、アドバイザーまたはゼミナール担当教員より本人に成績表を交付するので、学部事務室の指示に従って必ず交付を受けること。その際、学生証を提示すること。  
 なお、指定された期日以外には交付しない。
- (2) 成績の評価は次の記号で表わし、60点以上をもって単位取得（合格）とする。
- | （合格）      | （正規試験不合格）       | （追・再試験不合格） |
|-----------|-----------------|------------|
| S：100～90点 | F：59点以下（再試験受験可） | D：59点以下    |
| A：89～80点  | T：追試験受験可        | E：未受験      |
| B：79～70点  | Z：追・再試験の受験資格なし  |            |
| C：69～60点  | 評価不能            |            |
- (3) 成績表には、学習成果を総合的に推し量る指標 GPA（Grade Point Average）を表記している。  
 詳細については、Web履修登録画面にて確認すること。
- (4) 成績についての疑問、質問等は成績表交付日のみ受け付けるので、学部事務室に問合わせること。
- (5) 事故、病気等により指定日に成績表の交付を受けられない場合は、代理人を定め、成績表の交付を受けること。その場合は代理人学生証および委任状を持参すること。